



**第319号**  
 編集責任 筑波大学新聞  
 編集代表 福原直樹  
 TEL: 029(853)2040-6699  
 E-mail: shinbun@un.tsukuba.ac.jp  
 月刊  
 発行所 筑波大学  
 茨城県つくば市天王台1-1-1

**紙面から**

みんラポ 高齢者の声製品開発に活用 2  
 絶対音感 「笑み」に圧倒される公演 5  
 ラグビー 全国大学選手権 初優勝逃す 8  
 柔道 永瀬 グランドスラム東京連覇 9  
 ノーベル財団理事長講演 永田学長と対談 10  
 漂流する教室 主体的な学びを支援 11

**ミニ特集** 3  
 旅立つ アスリートたち

**特集** 6,7  
 筑波大生 「支持政党なし」77%

# ノーベル財団理事長単独インタビュー 「独創性を持って」

## 賞金額引き上げ視野に

筑波大学に1月、講演で訪れたノーベル財団理事長のカール・ヘンリック・ヘルディン氏は、講演に先立ち本紙の単独取材に応じた。この中で理事長は、今後のノーベル賞の課題として「賞の『価値』を上げる」ことを指摘。近年、減額された賞金を元のレベルに戻す意向を示した。また過去、賞にふさわしくない受賞者がいたことを認め、「適切な選考を行って賞の信頼性を守りたい」と語った。理事長はノーベル賞を目指す筑波大の学生、研究者に「独創性を持ってほしい」と話している。(福原直樹)本紙編集代表、平嶋健人(社会学類3年、佐々木優二(知識情報・図書館学類3年、10面に発言内容と関連記事))



ヘルディン理事長

ノーベル賞は資金難から2012年、賞金が1000万クローナ(約1億4500万円)から800万クローナに下げられた。これについて理事長は、「ノーベル賞は資金難から2012年、賞金が1000万クローナ(約1億4500万円)から800万クローナに下げられた。これについて理事長は、適切な授賞があったと指摘。その後、同手続の非人間的なD.D.Tの毒性が問題になったため、「最も賞にふさわしい人間を慎重に選ぶことが最優先課題」と話した。同賞では受賞対象の業績から実際の受賞まで数年かかる場合があるが、理事長によると、これも慎重な審査が一因の場合がある。

同賞は物理学など6部門。理事長によると各部門の選考委員会(数人で構成)が毎年、世界の有識者1000〜数千人に推薦状を送付。通常、数百件の返答があり、委員会はこれの中から候補者を絞る。この後、委員会はスウェーデン王立科学アカデミーなどにこれを報告。そこで議論で決定するが、この間の選考経緯は受賞から50年間公開されない。

この審査の「秘密性」について理事長は、「外部からの圧力に屈せず、独立した審査を行うために重要だ」と指摘。また、賞の選考委員については「利益相反や汚職行為を禁ずる規定がある」として、選考過程の公正さを強調した。一方で、ノーベル平和賞の選考

については「完全」に客観的な選考は難しく、政治的(に影響される)場合もある」と指摘した。理事長は、筑波大の学生・研究者に対し「ノーベル賞獲得のためには、新たに創造的なこと(研究)をしてほしい。選考委員会は最初からアイデアを考え出した人、最初に何かを行った人を探し求めている」とメッセージを送った。

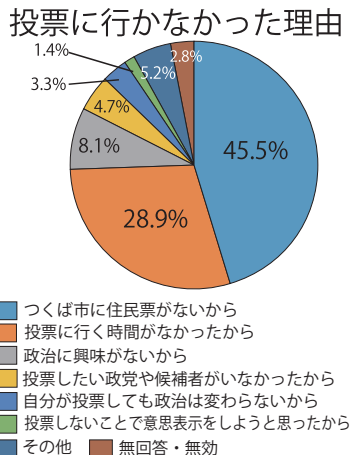
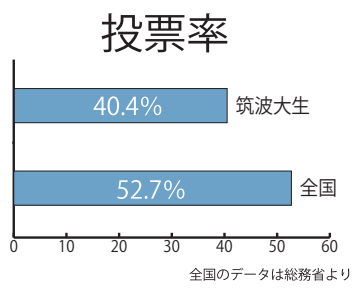
1952年スウェーデン生まれ。80年、同国ウプサラ大学で博士号取得(医学、生化学)。92年同大教授(分子生物学)。2003年ノーベル財団理事長。同財団は主にノーベル賞の財政・運用を担当し、選考過程には関与しないが、過去には同国王立科学アカデミーの会員として選考過程に携わっていた。



1月17-18日に、大学入試センター試験が行われた。受験生は緊張した面持ちで、試験開始の合図を待っていた。今こそ、努力の成果を全力でぶつける時。あこがれの大学生活まで、もうひと頑張りだ。(原啓一郎=社会学類4年、写真・小野憲司=同1年)

# 筑波大生の投票率40%

## 衆院選 全国平均12ポイント下回る 本紙調査



本紙は1月、筑波大生454人を対象に、昨年12月の衆議院議員総選挙や政治意識に関するアンケート調査を実施した。その結果、選挙権を持つ筑波大生(356人)で投票に行ったのは40.4%だった。総務省の調査によると投票率の全国平均は52.7%で戦後最低だったが、更にその値を大きく下回っている。無投票は「つくば市に住居がない」が大きな理由で、これらの学生の過半数が不在者投票制度(2)を知らなかった。一方、「周囲の

筑波大生と政治について話をすることが多い」という問いには、学生の75.6%が「全く」と「ほとんどしない」と答えて、筑波大生の政治的無関心が際立っている。投票に行かなかった理由は「つくば市に住居がないから」が45.5%と最も多く、続く「投票に行く時間がなかったから」の28.9%を大きく上回った。現住所に住居が無くても不在者投票制度を利用すれば投票ができる。だが「つくば市に住居がない」が原因で、この結果について日本政治が専門の竹中佳彦教授(人社系)は、「(不在者投票は)若干手間がかかる。更に今回の衆院選は自民党が圧倒的に強く、野党の力が弱い『一強多弱』。安倍内閣継続が容易に見込めたため、わざわざ制度を利用してまで投票する必要を感じなかったのだろう」と分析した。

調査の際に追加取材への協力を申し出た学生3人で、1月15日に実施した座談会でも「制度利用の手続きが煩雑すぎる」「若者の自民党への対抗」が36.8%と最多で、「何も望まない」15.2%、「野党再編」は11.2%だった。(添島香苗)生物学類2年、6,7面に調査結果と関連記事

「今後の野党に何を望むか」という問いに対しては、「野党間の連携強化による自民党への対抗」が36.8%と最多で、「何も望まない」15.2%、「野党再編」は11.2%だった。(添島香苗)生物学類2年、6,7面に調査結果と関連記事



三井住友カードと提携し、筑波大学関係者を対象に4月から始まるクレジットカード事業の準備が進んでいる。カードの名称は「筑波大学校友会カード」(写真)。通常のクレジットカードのサービスのほかに電子マネーも利用できる。現在、新入生や在学中に案内するとともに、カード利用特典の協力店舗を募っている。校友会カードを利用できるのは、筑波大の在学生のほか卒業生、教職員など。協力店舗でカードを利用した場合は提示した場合、割引などの特典が受けられる。協力店舗は筑波大周辺の商業施設や不動産会社、飲食店など50以上になる見通しだ。事業を進める筑波大連携・渉外室の古山陽一室長は「学生生活のさまざまな場面に想定し、幅広い種類の店舗に特典への協力を依頼している」と話す。連携・渉外室は、2月末日までにパンフレットで特典をまとめて紹介したり、協力店舗の入り口に目印となるステッカーを貼るなど広報活動にも力を注ぐ。ステッカーのデザインは、校友会カードのデザインを手がけた西川潔名誉教授が担当する。また電子マネーサービス(iD)は、カードを専用

# クレジットカード 4月から

## 大学周辺の店舗で利用特典

三井住友カードと提携し、筑波大学関係者を対象に4月から始まるクレジットカード事業の準備が進んでいる。カードの名称は「筑波大学校友会カード」(写真)。通常のクレジットカードのサービスのほかに電子マネーも利用できる。現在、新入生や在学中に案内するとともに、カード利用特典の協力店舗を募っている。校友会カードを利用できるのは、筑波大の在学生のほか卒業生、教職員など。協力店舗でカードを利用した場合は提示した場合、割引などの特典が受けられる。協力店舗は筑波大周辺の商業施設や不動産会社、飲食店など50以上になる見通しだ。事業を進める筑波大連携・渉外室の古山陽一室長は「学生生活のさまざまな場面に想定し、幅広い種類の店舗に特典への協力を依頼している」と話す。連携・渉外室は、2月末日までにパンフレットで特典をまとめて紹介したり、協力店舗の入り口に目印となるステッカーを貼るなど広報活動にも力を注ぐ。ステッカーのデザインは、校友会カードのデザインを手がけた西川潔名誉教授が担当する。また電子マネーサービス(iD)は、カードを専用

**筑波お話し**  
 寒さが一段と厳しくなってきた。春や夏、秋と比べて、白っぽい冬の景色はどこか味気なさを感じる。だが、日本の伝統色「和色」には白色だけでなくさまざまな色がある▼わずかに黄色がかった白を表す練色、灰色帯びた白である灰白色、わずかに青みがかった白の卯の花色……。300色を超える和色を考えば冬景色も違って見える。和色は、自然と寄り添いながら生きてきた日本人の情緒の豊かさも表している▼同じ「色」でも、「色眼鏡」で人や物事を見ることは歓迎されない。微妙に違う色も「色眼鏡」越しに見れば、時には単色にしか見えなくなる。そしてそれはさまざまな偏見や誤解のもとだ。「色の付いた事実」に粉れた真実がいくつあるか、想像もつかない▼昨秋の本紙調査で、学生の約9割が授業中にスマートフォンを使用している実態が明らかになった。「学生の意識が低いから」「授業が退屈なせい」などと、その見方も人により異なる。色眼鏡をかけたまま一つの見方に固執するのはなく、さまざまな議論をすることが一番の解決策になるはずだ▼幼いころ、シャボン玉でよく遊んだ。透明な石鹸水からできたシャボン玉は見る角度を変えれば変幻自在に色を変える。同じように、事実の解釈も「十人十色」だ。和色のような些細な色のパリエーションを大切にしながら、議論を進めていきたい。

# 誰もが暮らしやすい社会の実現へ 高齢者の声 製品開発に活用

「みんなラボ」

## 使いやすいやすさを検証

原田悦子教授(人間系)らの「みんなの使いやすいラボ(みんなラボ)」の取り組みが好評だ。高齢者にモニター試験に参加してもらい、その声を製品開発に反映。誰もが暮らしやすい社会の実現を目指す。国内外でも例がないユニークな取り組みが注目されている。(小野憲司「社会学類」1年)

原田教授は、携帯電話など、一度製品がうまく使えないと日常生活を送る上で「不便」のために、高齢者の生活の質



みんなラボのホームページを背にほほ笑む原田教授=本人提供

が低下していることに着目。2011年に人間系やシステム情報系の教員と「みんなラボ」を設立した。茨城県の県南地区在住の60歳以上の男女をボランティアとして約200人集めた上で、つくば市吾妻にオフィスを設け、そこで高齢者によるモニター試験を始めた。

主な試みの一つが「使いやすい」を検証。民間企業から依頼された製品を高齢者が使っている様子や心理学的見地から分析する。

実験では、高齢者が説明書を見ながらタブレット端末を操作したり、レトルト食品を調理する様子やビデオカメラで撮影。高齢者がどのように製品を扱い、どの場面でも扱いに困るか企業担当者と共に観察・分析する。その結果から、使いやすい製品へと改善するため

に、企業にさまざまな提案をする。みんなラボでは高齢者を登録する際、健康状態や価値観などを200を超える項目を調査し、データベースに記録している。企業の要望にあった参加者の抽出が可能で、製品の「使いやすさ」の原因を究明しやすくしている。昨年には、全ての人を使いやすいものづくりを目指す活動が評価され、国際ユニバーサルデザイン協会(IAUD)主催の「IAUDアワード2014」で金賞を受賞した。

「科学の芽」賞

## 小中高18件が受賞 ユニークな視点光る



「科学の芽」賞を受賞した小学生による研究発表

小・中・高校生を対象に、科学や自然現象についての優れた研究を募集する朝永一郎記念第9回「科学の芽」賞の表彰式が昨年12月20日、大会会館ホールで行

## 訃報

前筑波大学男子バレーボール部監督の都澤凡夫名誉教授が10日、脳症のためつくば市内の病院で亡くなった。66歳だった。現役時代は筑波大でバレー部の中心選手として活躍。その後富士フイルムに入社し、全日本代表候補にもなった。選手引退後、1987年に筑波大バレーボール部の監督

に就任し、6連覇を含む8度のインカレ優勝にチームを導いた。92年のバルセロナ五輪で活躍した中垣内祐一を始め、多くの日本代表選手を育てた。2003年にチャレンジャリーグのつくばユニテッドを設立。05年にはトップチームのつくばエナジーに入社し、全日本代表候補にもなった。選手引退後、1987年に筑波大バレーボール部の監督

## 催事

ATGC展

「ATGC展―芸術の目から見る生物学―」が1月30日―2月4日に筑波大学総合交流会館多目的ホールで開催される。生物学に触れて感じたことを芸術作品として表現して展示する作品のジャンルは、絵画からメディアアートまでさまざま。生物学類と芸術専門学群に所属する学生の有志と、村上史朗助教(芸術系)によって企画開催される。

問い合わせ＝s1210557@u.tsukuba.ac.jp(代表)

## 筑波大学国際テニストーナメント

第5回筑波大学国際テニストーナメントが3月28日―4月4日まで筑波大学体育センターコートで開催される。国立大学で唯一の、世界のトップを目指すプロが集まる国際テニス大会。ウィンプルドンなど四大国際大会への登壇門となっている。大会のほかにも各種イベントを開催予定。

3月28日は午前9時から試合開始予定。観戦は無料。問い合わせ＝tsukubafutures.1@gmail.com(代表)

詳細＝<https://www.facebook.com/atgc.tenrankai> The Location=timelime (ATGC展―芸術から見る生物学―フェイスブックページ)

## 平成26年度卒業式・学位記授与式

平成26年度卒業式が、3月25日に大会会館講堂で行われる。9時10分開場、10時に開式し、10時55分に閉式。28日には、東京キャンパスで大学院学位記の授与式が開かれる。12時10分開場、13時開式、13時55分に閉式。問い合わせ＝so.sonuka@un.tsukuba.ac.jp(総務課)

持つOBと質疑応答を何人も練習し、発表の質を高めたい。リーダークラス(国経2年)は「アジア太平洋地区大会は母国語が英語の審査

## 筑波大と産総研

### 縦割り行政超え共同出資 「研究費のあり方を変革」

筑波大学は、産業技術総合研究所(産総研)と共同研究費を出し合い、双方の研究費で構成した研究チームが提案する共同研究に資金を提供する「産総研と筑波大との合わせ技ファンド」を設立した。従来、所管省庁の異なる研究機関が共同研究を行う場合、縦割り行政の影響で研究チームはどちらかの機関の予算しか使えなかった。だが今

る。老化防止に役立つサプリメントの開発などへの応用が期待されている。ファンドの設立に携わった同本部の内田彦彦副部長は「省庁の壁を超えた共同研究は非常に珍しく、革新的だ。研究成果は、更に企業などに提供することで実用化が進められる可能性もある。この試みを機に、つ

くば市梅園と東京の経済産業省内に本部を置く。

## ビッグデータ分析 筑波大 研究拠点を設置

筑波大学システム情報系は1月1日、企業や自治体を持つ「ビッグデータ」を分析する研究拠点「サービ

スのソフトを提供するほか、産業技術総合研究所(つくば市梅園)、常総市などの地方自治体、一般企業が研究に参加する予定で、産学官の連携が期待される。

分析・研究には筑波大をはじめとした大学院生も参加でき、学生は最先端のデータ解析の手法を学ぶことができる。

同拠点のコーディネーターを務める岡田幸彦准教授(システム系)は「ビッグデータはあまり活用されていないのが現状。データを解析し、新たなアイデアを生み出したい」と語った。

同拠点では、ビッグデータを解析することで、企業や自治体が提供するサービスの改善、向上を目指す。大手コンピュータ会社

の日本IBMがデータ解析

の日本IBMがデータ解析

の日本IBMがデータ解析

# 旅立つアスリートたち

スポーツの強豪として有名な筑波大学。今年も多くのアスリートが旅立ちの時を迎える。米光、苦難、歓喜……。多くの経験を積んだ4年間を終え、新たなステージへ旅立つ彼らの軌跡と抱負を聞いた。(森脇慎二社会学類、姉崎信二心理学類、栗山菜帆子II障書科学類、深作歩美II生物資源学類)

## 「限界まで挑戦したい」

昨年8月に行われた全国同種目で準優勝を果たした。筑波大学の2年ぶりの優勝に大きく貢献した。4月には「自分の限界に挑戦するため」筑波大学大学院に進学し、来年のリオデジャネイロ五輪を目指す。4歳で水泳を始めた。着実に実力を伸ばし、中学3年生の時400メートル個人メドレーで初めて全国大会に出場し8位入賞。高校3年生の時のインターハイでは、



村川諒 (水泳)

そんな時、チームのために泳ぐ仲間たちの姿に心を動かされた。自分のことばかりで、チームの足を引っ張ってしまった申し訳なさ、悔しさを覚えた。日本学生選手権(インカレ)、平泳ぎで準優勝しチームに貢献した若月哲也(平成23年度体育専門学群卒)に「前はこんなもんじゃない。悔しさを絶対に忘れるな」と言われた。その言葉は、つらい練習を送る村川を支えた。4年生では主将を務めた。「自分のためではなく、チームのために泳ごう」と。悔しさを覚えた。日本学生選手権(インカレ)、平泳ぎで準優勝しチームに貢献した若月哲也(平成23年度体育専門学群卒)に「前はこんなもんじゃない。悔しさを絶対に忘れるな」と言われた。その言葉は、つらい練習を送る村川を支えた。4年生では主将を務めた。「自分のためではなく、チームのために泳ごう」と。

## 今できることに全力注ぐ

ジュニア時代から世代的に勝つなど、注目を集めてトップを走ってきた。中学3年生の時に全国中学生大会を制覇すると、高校2年生の時にはジュニアの世界大会、世界ジュニア選手権で優



遠藤宏美 (柔道)

勝するなど、注目を集めてトップを走ってきた。中学3年生の時に全国中学生大会を制覇すると、高校2年生の時にはジュニアの世界大会、世界ジュニア選手権で優。順風満帆な柔道人生を歩んでいたが、今は故障に苦しんでいる。一昨年11月の講道館杯で肩を脱臼。それが完治した後、今度は左膝の前十字靭帯を断裂し、現在は戦線から離脱している。険しい道のりが続くが、その姿勢は前向きだ。それが、復帰に向けたリハビリだ。スポーツのリハビリは、けがをした部位を元通りに動かせるようにすることが目的ではない。新たな

## 精神磨いた4年間

昨年10月の首都大学野球秋季リーグ、帝京大学との2連戦第1試合。勝つのは優勝への望みがたがなる一戦で、値千金の決勝打を放つ。次戦で敗れ優勝とはならなかったが、6年ぶりの関東地区大学選手権出場に大きく貢献した。



平井孝治 (野球)

最大の目標はプロ野球選手になることだが、「自分にはまだほろっとした長所がない。(社会人野球では)長打力を伸ばし、プロ球団に注目される武器を身につけたい」と決意する。東地区大学選手権では、1ドラフト会議で名前を呼ばれるその日を夢見て、平井の挑戦は続く。(体専4年)

武器を身につけるための時間もある。柔道から離れ自分客観的に見つめることができ、体全体の筋力バランスが悪いことに気付いた。けがをした膝だけでなく体全体の筋力トレーニングを行い、故障しにくい体を作っている。「周りが練習している時に稽古ができないことはつらいが、今自分ができること」に全力で取り組んでいる。

目標の選手は、同じ48歳で世界選手権など数々の世界タイトルを制覇した福見友子(平成22年度人間総合科学研究科修了)だ。圧倒的な強さだけでなく、意志の強さや柔道に対する心構えも尊敬している。

昨年11月の全日本インカレ決勝戦。相手は宿命のライバル、東海大学。67・57で見事勝利し、筑波大学は61年ぶりの米冠を手にした。歓喜の輪の中心には、主将としてチームを引っ張

新人戦でアシスト王に輝くなど活躍していたが、2年生の春に膝の靭帯を痛めた。2カ月試合に出られなくなった。だがこの期間に毎日ウエイトトレーニングを行ったり、体づくりに専念。細かった体は一回り大きくなり、簡単に当たり負けすることがなくなった。「今思うと、あの時けがをして良かったと思う。振り返ると、4年生になり主将になると、「覚悟」というスローガンに掲げた。「練習中の少しの気の緩みが試合で負けたら、常に勝つ覚悟が必要」という思いからだ。またミーティングを頻繁に開き、上下関係に縛られず一人ひとりの考えを皆で共有することにも



笹山貴哉 (バスケ)

向上心忘れずプロの世界へ。力を入れた。「コートの中では学年は関係ない。後輩が今でも力になっている。この春、フロリダ・NBLの三菱電機ダイヤモンド・ドルフィンズ名古屋に入団する。プロには190センチを超える選手が多いが、笹山の身長は178センチと、大

## 向上心忘れずプロの世界へ

度も思った。悩んでいる時でも、そう遠くはないだろう。(体専4年)

# 記者の声



倉沢美紀

4月から社会人になるが、頭が痛いことがある。奨学金返済だ。私の場合、公的な奨学金事業を行う日本学生支援機構から4年間、240万円を給付されたが、これに0.2%の利息を加えた額を約15年で返さなければならない。日本の場合、他の先進国に比べ返済義務のない公的奨学金の数は少ない。文部科学省の有識者会議は昨年、返済義務のない公的奨学金の創設

## 奨学金の返済 大きな負担 海外を例に早急な改革を

科学省所管の日本学生支援機構によるものだ。平成24年度は約132万人が平均で月約3万円の給付を受けている。すべてに返済義務があり、無利子と有利子の2種類に分かれている。他にも地方公共団体や公益法人による奨学金として「連邦ペル獎学金」があり、日本円に

なものと民間の団体や個別の大学が用意するものがあり、日本では学部生の約5割にあたる約150万人が給付を受けている。大手紙によれば、国の返済義務のない奨学金を約6倍が、返済義務のない

奨学金を受けられる規模になる。日本の場合、社会人になってからの負担は想像以上に大きい。近年は返済ができません。滞納する人も増えており、日本学生支援機構の調査では、返済義務のある人全体の約1割にあたる33万4千人が滞納している。

奨学金と言えは返済義務のないものを思い浮かべる人も多いが、日本では「奨学金」と言いがらも実質はローンだ。返済義務のない奨学金の普及は日本にとって喫緊の課題だと言え。

返済義務のない公的奨学金の制度を設ける際は、奨学金が適切に配分される仕組みづくりも求めたい。前述したアメリカの奨学金の場合、所得

に基いて返済の負担が軽減される仕組みが導入されている。さらに成績による基準も設ければ、受給を目指す学生の学習意欲も高まると思われる。大学生の学習時間の減少という問題の解決にもつながるだろう。

（国際総合学類4年）

# 筑波時評

早いもので、阪神・淡路大震災から今年で20年、東日本大震災からもつう4年になる。神戸市出身ということで学会調査団の道案内を依頼されたことが始まりで、東日本大震災の復興計画をお手伝いさせていただいた縁もあり、今回「神

### 阪神・淡路大震災 復興プランの事前作成を

戸の経験から東日本大震災の復興を考える」をテーマに執筆依頼をいただいた。そもそも災害はどのような場所によって全く異なる被害をもたらすし、全く異なる復興の対応を必要とするものである。このため、都市災害の様相を持つ神戸の復興と、地方部に津波の形で広域被害が生じた

た東日本大震災とでは、全く同列に論じられないというのがまず出発点である。一方で、場所や状況に関わらず、明らかに大震災への復興を考える上で共通と思われることも多い。それは、大震災がそ

の場所では発生しにくい。一方、神戸の場合は、それまで海外との価格差があったりも何となくキープしていた港灣物流（コンテナ）の取り扱いが、震災をきっかけに海外流出した。港湾機能が回復してもその多くは戻っていない。そ

う、彼がある自治体で大きな移転地を一つだけ計画したところ、個別の地区要望を無視しているとの批判を受けた。しかし当初の移転希望者の多くは自力更生し、その数は減っていく。このため、小さな地区別移転地はその事業性を無くしてしま

い、かといって更地につまどめる合意形成もできなくなっている。一方で彼が提案した大きな一箇所の移転地は、その規模を実際の移転希望者に

て、高校と大学の友人に手書きの絵とノックを書いた。

【物理2年・女性】 面倒だから送っていない友人を中心に50通ほど送った。内容は「おあけましておめでとう」というあいさつに加えて、個別のメッセージを一言ずつ添える程度。友人同士の礼儀や日本の文化として、これからも年賀

【総評3年・女性】 交換する約束をしていたので、高校と大学の友人に手書きの絵とノックを書いた。

【総評3年・男性】 面倒だから送っていない。中学の時に送って以来、年賀状は出していない。そのため、なぜ年賀状を送らないのか分からない。

## 谷口守 教授（都市計画）

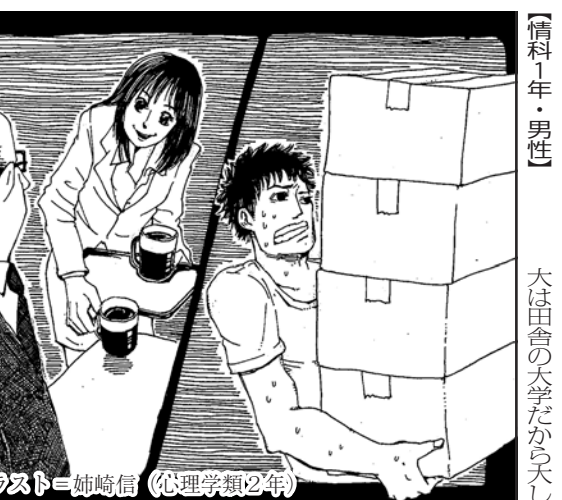


シス情系・教授。京都大学大学院工学部研究科指導認定退学。岡山大学環境理工学部教授などを経て2009年より現職。著書に「入門都市計画」（森北出版）など。

# 反射鏡

## 私の周りの「差別」

昨年、日本では特定の民族への憎悪を示すヘイトスピーチが問題になった。また最近フランスで起きた事件では、宗教による差別が議論されている。筑波大生が考える「差別」とは何か。外国語センターと中央図書館の周辺で聞いた。（油布知夏II人文文学類2年、佐々木優II知識情報・図書館学類3年）



イラスト=姉崎信(心理学類2年)

【総評3年・男性】 面倒だから送っていない。中学の時に送って以来、年賀状は出していない。そのため、なぜ年賀状を送らないのか分からない。

【総評3年・女性】 面倒だから送っていない。中学の時に送って以来、年賀状は出していない。そのため、なぜ年賀状を送らないのか分からない。

## 年賀状書きましたか？

近年、新年のあいさつとして年賀状を出さなくなる者が増えている。JNNデータバンクによると、2013年に「年賀状を出さない」と答えた20代の男女は49.4%と、2004年の28.3%から大きく増加した。今年、筑波大生は年賀状を送ったのか。中央図書館周辺で聞いた。（関根岳II社会学類3年、深作歩美II生物資源学類1年）

【化学2年・女性】 年賀状を送る約束をして、高校と大学の友人に手書きの絵とノックを書いた。

【比文4年・女性】 面倒だから送っていない。3年間程年賀状を出していない。最近フェイスブックやツイッターなどのSNSが年賀状の代わりになっているが、はがきで年賀状を送る伝統が消えていくのは悲しい。

【生資2年・女性】 面倒だから送っていない。3年間程年賀状を出していない。最近フェイスブックやツイッターなどのSNSが年賀状の代わりになっているが、はがきで年賀状を送る伝統が消えていくのは悲しい。

【物理2年・女性】 面倒だから送っていない。中学の時に送って以来、年賀状は出していない。そのため、なぜ年賀状を送らないのか分からない。

【総評3年・女性】 交換する約束をしていたので、高校と大学の友人に手書きの絵とノックを書いた。

【物理2年・女性】 面倒だから送っていない。中学の時に送って以来、年賀状は出していない。そのため、なぜ年賀状を送らないのか分からない。

【国語3年・男性】 面倒だから送っていない。中学の時に送って以来、年賀状は出していない。そのため、なぜ年賀状を送らないのか分からない。

【生資1年・女性】 昨今では年賀状のやり取りをしていたが、今年は中身の良くなった高校時代の友人たちが送っていない。年賀状は送っていない。来年は送りたい。

## 谷口守 教授（都市計画）



シス情系・教授。京都大学大学院工学部研究科指導認定退学。岡山大学環境理工学部教授などを経て2009年より現職。著書に「入門都市計画」（森北出版）など。

た東日本大震災とでは、全く同列に論じられないというのがまず出発点である。一方で、場所や状況に関わらず、明らかに大震災への復興を考える上で共通と思われることも多い。それは、大震災がそ

の場所では発生しにくい。一方、神戸の場合は、それまで海外との価格差があったりも何となくキープしていた港灣物流（コンテナ）の取り扱いが、震災をきっかけに海外流出した。港湾機能が回復してもその多くは戻っていない。そ

う、彼がある自治体で大きな移転地を一つだけ計画したところ、個別の地区要望を無視しているとの批判を受けた。しかし当初の移転希望者の多くは自力更生し、その数は減っていく。このため、小さな地区別移転地はその事業性を無くしてしま

い、かといって更地につまどめる合意形成もできなくなっている。一方で彼が提案した大きな一箇所の移転地は、その規模を実際の移転希望者に

て、高校と大学の友人に手書きの絵とノックを書いた。

【物理2年・女性】 面倒だから送っていない友人を中心に50通ほど送った。内容は「おあけましておめでとう」というあいさつに加えて、個別のメッセージを一言ずつ添える程度。友人同士の礼儀や日本の文化として、これからも年賀

【総評3年・女性】 交換する約束をしていたので、高校と大学の友人に手書きの絵とノックを書いた。

【総評3年・男性】 面倒だから送っていない。中学の時に送って以来、年賀状は出していない。そのため、なぜ年賀状を送らないのか分からない。

# つくばリサイタル・シリーズ クラリネットの音色に触れる



クラリネットを奏でる金子さん(1月13日、大学会館ホールで)

## プロの奏者が演奏

つくばリサイタル・シリーズ実行委員会が主催するコンサート「第3回ドイツ・ロマン派、珠玉のクラリネット名曲集」が1月13日、大学会館ホールで行われた。目玉は、J・ブラームス作曲「クラリネット・ソナタ第一番」。会場には学内外から約160人が訪れ、ピアノとクラリネットの音色に耳を傾けた。(山野辺拓実「社会学類1年、写真も」)

つくばリサイタル・シリーズは2年前から行われているコンサート企画で、毎回プロの演奏家が招かれる。今回の演奏者は読売日本交響楽団首席クラリネット奏者の金子平さんと、音楽大学でピアノなどを指導している鈴木慎崇さん。ブラームスのクラリネット・ソナタ第一番は、流れるようなピアノと、クラリネットの精巧なハーモニーが美しい楽曲だ。観客は、プロの卓越した演奏技術と、美しい音色に魅了された。

## 卒業生も落語披露 即興織り交ぜ観客沸かせる

落語研究会創立40周年記念ライブ「お笑い科学万博15」が1月17日、ノバホール(つくば市吾妻)で行われた。今回のライブには、同研究会の卒業生も参加。さまざまな演目を披露し、観客を沸かした。



「鮫講釈」を演じる「立川志のぼん」さん(1月17日、ノバホールで)

立川志のぼんさんは、落語研究会員が集まり、楽しかった。40年の伝統をこれからも引き継いでいってほしいと話した。

会長の小林陽一郎さん(化学2年)は「先輩たちの落語が自分たちの目標。早く落語を上達させて、先輩たちに近づきたい」と話した。(山野辺拓実、写真も12面に関連写真)

## 「バベルの塔」奏でる 他団体との共演も

筑波大学吹奏楽団の第72回定期演奏会が、昨年12月12日にノバホール(つくば市吾妻)で開かれ、県内外から約600人が訪れた。

第1部ではR・シエーガー作曲「シンフォニア・ノビリッシマ」や、広瀬勇人作曲「バベルの塔」など3曲を演奏。「バベルの塔」は旧約聖書の「創世記」に描かれた神話をモチーフにした、全7楽章から成る楽曲で、塔を建設する場面や人々の混乱、神の怒りなどが描かれている。さまざまな楽器が主旋律を代わる代わる演奏する同楽曲を、指揮者の佐藤拓人さん(地球3年)は緻密にコントロールし、観客を神話の世界に引き込んだ。

第2部では同演奏会の目玉である、アカペラサークルDoo-Wopと舞踏研究会とのコラボレーション

### 筑波大学 出版会 近刊案内

#### 筑波山から学ぶ

「とき」を想像・創造する 前川啓治編

筑波山の歴史、民俗、経済、地域づくりについて具体的に紹介する。神代から現代まで続く筑波山の存在と人々の山に対する思いで形作られた「環筑波文化圏」という視点から、筑波山の過去と未来を想像してみようか。

万葉集に筑波山を詠んだ歌が25首も収録されていることから分かるように、筑波山周辺の地域では古くから文化が育まれてきた。現在、筑波山に関する文化を再興する「筑波山ルネサンス」という取り組みが行われており、周辺地域ではジオパーク構想も進む。

本書カバー裏には、筑波山を訪ねる人向けに「筑波山麓フットパス・マップ」を掲載。マップを手に、各章で取り上げている世界を思い浮かべながら古い小道を巡れば、時間を超えた空間を体験できるだろう。

編者は筑波大学 社会学系教授。A5判並製、約2000頁。1月20日刊行。2900円十税。

# 絶対音感

筑波大学の劇団サークル「劇団竹蜻蛉」の第176回公演「殺されなかつたクックロビン」が、1月10-11日に2D棟で行われた。イギリスなどの英語圏の童謡「Who Killed Cock Robin? (誰が駒鳥殺したの)」を下書きにした、約25分のショートサスペンスだ。物語はスズメ(佐藤真琴「知識図書1年」、ハエ(小屋香苗「日3年」、サカナ(百生成美「

## 「笑み」に圧倒される公演

同3年の3人の女性が、「クックロビン」という「誰か」を殺し、立ち戻らずシーンから始まる。動揺する登場人物「エ」と「スズメ」に対し、「サカナ」は平然と「死体と目撃者と犯人のいない事件にしよう」と提案。「クックロビン」は殺されなかつた」と、スズメとハエに復唱させた。



場面は変わり、スーツを着た大柄な刑事Kと田村仁「知識図書2年」がカセットテープを手に現れる。テープには冒頭の3人の、殺人をほめめかす会話が録音されている。

声でじわじわと3人を追い詰め始めた……。公演を通して観客を圧倒したのは、役者の「笑み」だった。サカナが死体の隠匿を提案した時の、一点の曇りもない笑み。Kが3人を追いつめ、倒した時に浮かべた、自信に満ちた笑顔。そしてふとした拍子で、笑顔は真顔に変わる。「表情、感情に力を入れた」と百生が語る通り、観客に「笑み」が次々と襲いかかった。

更に「笑み」は、役者たちの立ち回りで引き立つ。サカナの場合、観客に笑顔を見せた後、ゆっくりと背を向け、2、3歩舞台の奥へ歩みながら、軽やかな声色でセリフを口にする。だがピタリと歩みを止め、ゆっくりと振り返ると、先程の笑顔はどこにも無い。公演の要所で使われたこの動きが、笑みを更に不気味に、深く仕立てあげた。

照明や衣装にもこだわりが見える。赤、青、緑の3色の照明は、それぞれスズメ、サカナ、ハエの3人のイメージカラーに合わせた。衣装にも性格を反映させた。怒りっぽいスズメは赤のセーター。内気なハエは緑のスカート。そしてサカナは鱗をイメージさせるひし形模様の青いタイツ。舞台は監獄を彷彿とさせる格子模様仕上げ、息苦しさを押し出した。

さて、「クックロビン」とは何者だろう。その正体は観客の想像に委ねられた。百生は「形容しがたい誰かかもしれないし、愛する誰かかもしれない」と語る。一方土田は「3人はクックロビンのためなら何でもするよ。自分を犠牲にして、何でもこ突き放す。クックロビンの正体は、永遠に役者の「笑み」の中にあるのだろうか。それとも……?」

公演は今回限りだが、クックロビンの正体を突き止めるべく、何度も舞台上に足を運びたい。(原啓一郎「社会学類4年、イラスト・姉崎信二「心理学類2年」)

### DEAフレックス総合評価法

#### 社会システム分析への適用

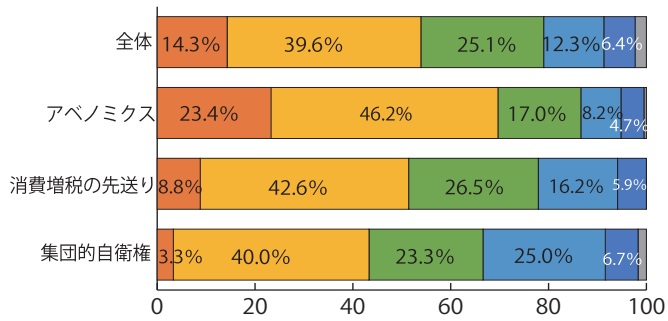
橋本昭洋著

公共機関や民間企業の効率性の分析評価のみならず、社会システム分析全般にも有効なDEA(包絡分析)のガイドブック。専門研究の成果を反映しながら、基本的な考え、評価手法、その適用の仕方、身近な事例を用いて平易に解説する。包絡分析法では、複数項目での総合評価、多様性を生かした評価、改善値の定量的な把握など、これまでの比率分析、回帰分析などでは見落とされがちであった、新たな分析結果を得ることができ、教育・研究の現場でもある大学出版会ならではの視点から、より分かりやすい構成と記述を目標とした。

著者は筑波大学システム情報系教授。A5判並製、約1600頁。1月20日刊行。2900円十税。

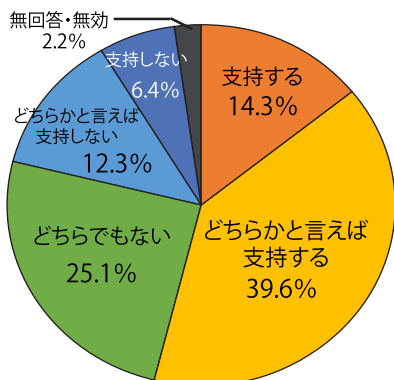
# 筑波大生「支持政党なし」77%

## 衆院選の争点と内閣支持率



参考：全国の20歳以上の男女の内閣支持率は支持する50%、支持しない32%  
NHK政治意識月例調査(1月10日-12日実施)より

## 安倍内閣支持率



安倍内閣を「支持する」「ない」と回答した学生の「どちらか」といえるは支持する18.7%を大きく上回った。「どちらか」といえるは支持する18.7%を大きく上回った。

## 安倍内閣の支持 5割超

## 民主0.4%と低迷

総務省の調査によると、衆院選の20歳代の投票率は1967年には66.7%だったが、12年には37.9%に低下している。また、本紙の調査では昨年12月の衆院選で筑波大生の投票率は40.4%だった。「若者の政治離れ」が問題視される中、筑波大生は政治に対してどれだけ関心を持ち、どのような意見を抱いているのか。アンケート結果や学生たちの座談会をもとに探った。(林健太郎、山野辺拓二、社会学類、添島香苗、生物学類、齋藤優斗、社会学類、佐々木優二、知識情報・図書館学類)

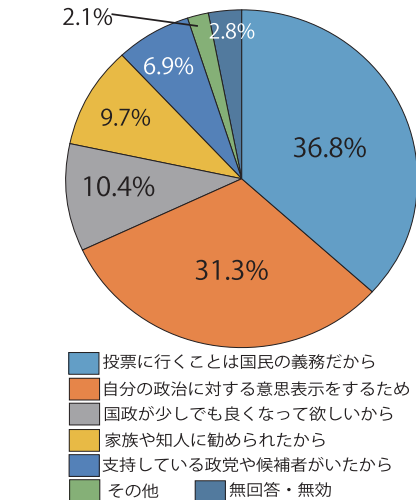
【投票に行く理由】  
「国民の義務だから」が36.8%と最も多く、「政治への意思表示が31.3%と次いだ。「国政が少しでも良くなってほしいから」が10.4%、「家族や知人に勧められた」が9.7%、「支持している政党や候補者がいた」が6.9%と多くの意見が並んだ。  
一方、投票に行かなかった理由は「つば市に住民票がないから」45.5%、「投票に行く時間がなかったから」28.9%だった。「政治に興味がなから」と答

## 65%が「選挙必ず行くべき」

### 【投票に行く理由】

えた学生は8.1%、「投票したい政党や候補者がいない」4.7%、「自分が投票しても政治は変わらない」1.4%と、選挙への関心は薄くも自立した。「投票しなくても政治は変わらない」1.4%と、選挙への関心は薄くも自立した。「投票しなくても政治は変わらない」1.4%と、選挙への関心は薄くも自立した。

## 投票に行った理由



投票に行くことは国民の義務だから 36.8%、自分の政治に対する意思表示をするため 31.3%、国政が少しでも良くなって欲しいから 10.4%、家族や知人に勧められたから 9.7%、支持している政党や候補者がいたから 6.9%、その他 2.8%、無回答・無効 2.1%

### 【野党あり方】

### 【野党あり方】

### 【野党あり方】

### 【野党あり方】

### 【野党あり方】

### 【野党あり方】

### 【野党あり方】

### 【野党あり方】

### 【野党あり方】

### 【野党あり方】

### 【野党あり方】

### 【野党あり方】

### 【野党あり方】

### 【野党あり方】

### 【野党あり方】

### 【野党あり方】

### 【野党あり方】

### 【野党あり方】

### 【野党あり方】

### 【野党あり方】

### 【野党あり方】

### 【野党あり方】

### 【野党あり方】

### 【野党あり方】

### 【野党あり方】

### 【野党あり方】

### 【野党あり方】

### 【野党あり方】

### 【野党あり方】

### 【野党あり方】

### 【野党あり方】

### 【野党あり方】

### 【野党あり方】

### 【野党あり方】

### 【野党あり方】

### 【野党あり方】

## 政党支持率

支持政党	筑波大	全国
自民	11.7%	39.4%
民主	0.4%	9.2%
維新	1.8%	2.7%
公明	2.4%	4.0%
次世代	0.7%	0.4%
共産	1.5%	3.7%
生活	0.2%	0.1%
社民	0.9%	0.8%
その他	0.0%	0.2%
支持なし	77.3%	31.9%
無回答	3.1%	7.7%

全国の支持率データはNHK政治意識月例調査(1月10-12日実施)より



政治意識について語る今井さん

筑波大生は、政治に対して具体的にどのような意見を抱いているのだろうか。アンケート調査の際に追加取材への協力を申し出てくれた酒井万由子さん(日田2年)、今井卓(社会学3年)、中川侑(知識図書2年)と本紙記者で座談会を行った。

昨年末の総選挙には行きませんでした。成人し初めて初めての国政選挙で、権利を行使しないのはもったいないです。中川 私も行きました。政治に自分の考えを反映するチャンスを使ってみようと思いました。酒井 住民票が地元にある、不在者投票制度を利用しようとも思いましたが、手続きがややこしかったので、投票しませんでした。今井 私は不在者投票制度を利用しましたが、やはり手続きは面倒でした。選挙に必ず行くべきだと思いますか。中川 候補者個人の考えよりも所属政党の方針が重視される傾向があるので、そういう意見が出るのでは、同じ党の中にも、違う考えの人はいらっしゃいます。酒井 私と同感です。メディアは政党中心の報道になっていると思います。

## 「未投票 一方的批判は理不尽」



意見を交わす中川さん(左)と酒井さん

中川 確かに、候補者個人の情報やマニフェストなどは、テレビだと選挙当日の特番でしか報道されません。安倍政権を支持しますか。中川 どちらかといえば支持しません。政策自体に反論はありませんが、例えば、特定秘密保護法はきちんと議論されていたか疑問を感じます。与党だけでおこなう議論をして、決議を採らうとするのは違うのではないのでしょうか。酒井 政治の情勢について知りたい時は新聞を使い、人の意見を知りたい時はSNSやネットを見たり、話を聞くなさっています。たまたま、SNSの情報を知りたがらないように注意しています。中川 今後、若者が政治に興味を持つには何が必要でしょうか。酒井 どちらかといえば支持しません。多くの問題を解決するのは難しい。だから個人個人に多少不満があっても仕方ありません。そう考えると、アベノミクスで成果を出している安倍政権は、まずまずやっているなという印象です。中川 自分たちの入れた票が無駄になっていないのが目に見えるようにして、政治に対する無力感をなくすべきだと思います。

# 政治に消極的



竹中佳彦教授

今回の調査からどのような若者の政治意識の実態が分かるのか。日本政治が専門の竹中佳彦教授(人社系)が調査結果を分析した。

とる人の69.6%が安倍内閣を支持していることから、回答者の内閣支持は自民党を支持するものではなく、日常生活や就職を左右する経済政策への期待や評価を表すものだ。ただ、回答者の78.4%の有権者(問2)のうち投票した人は40.4%にすぎない(問3)。全有権者の投票率は戦後最低の52.7%だった。それを更に下回る。若年層の投票率が低いのは珍しいが、投票に行かなかった学生の多くは、その理由を「政治に興味がなく」「つづき市に住民票がないから」「投票に行く時間がなかったから」と答えている。前ノミクスの是非」を争点とする人は不在者投票は不在者投票を更に下回る。

## 投票は義務感から

調査は回答者の所属学群の分布に偏りがあり、その結果も筑波大の平均的学生の像とはいえない。しかし日常的に政治に関心を持たず、政治に関する情報をテレビやネットから受動的に入手しがちな若者が、首相の経済政策に反感を持つこともなく、争点を受容した「そんな若者の政治意識が浮き彫りになっている。

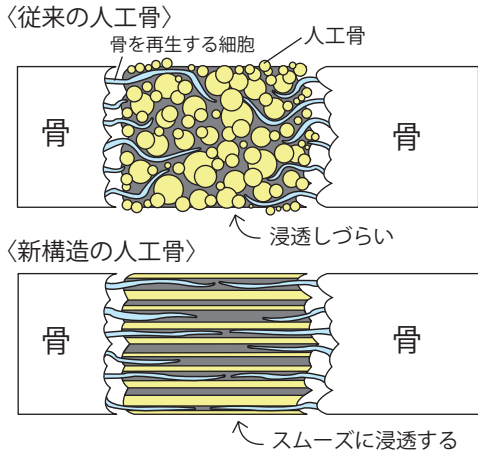
- ① 42.1% ② いいえ 57.3% 無回答・無効 0.7%
- ① あった 78.4% ② なかった 20.9% 無回答・無効 0.7%
- ① 行った 40.4% ② 行っていない 59.3% 無回答・無効 0.3%
- ① 支持している政党や候補者がいたから 6.9%
- ② 自分の政治に対する意思表示をするため 31.3%
- ③ 国政が少しでも良くなって欲しいから 10.4%
- ④ 投票に行くことは国民の義務だから 36.8%
- ⑤ 家族や知人に勧められたから 9.7%
- ⑥ その他 2.1% 無回答・無効 0.0%
- ① 行った 76.8% ② 行っていない 23.2% 無回答・無効 2.8%
- ① 支持している政党や候補者がいるから 6.8%
- ② 自分の政治に対する意思表示をするため 32.9%
- ③ 国政が少しでも良くなってほしいから 13.7%
- ④ 投票に行くことは国民の義務だから 39.7%
- ⑤ 家族や知人に勧められるから 0.0%
- ⑥ その他 4.1% 無回答・無効 2.7%
- ① 行った 40.4% ② 行っていない 59.3% 無回答・無効 0.3%
- ① 行った 76.8% ② 行っていない 23.2% 無回答・無効 2.8%

## HELLO! 先端科学

骨折などで損傷した骨を修復するため、外科手術では損傷した部分にハイドロキシアパタイト(HA)などの物質から作られる「人工骨」を埋めることがある。人工骨は体内に一生残るものとイメージされがちだが、損傷した骨の再生を手助けした後は分解され、溶けて無くなる。坂根正孝准教授(医学医療系)らは2009年、従来より短期間で骨を再生させ

## 新構造の人工骨を開発 骨の再生期間短縮へ

骨折などで損傷した骨を修復するため、外科手術では損傷した部分にハイドロキシアパタイト(HA)などの物質から作られる「人工骨」を埋めることがある。人工骨は体内に一生残るものとイメージされがちだが、損傷した骨の再生を手助けした後は分解され、溶けて無くなる。坂根正孝准教授(医学医療系)らは2009年、従来より短期間で骨を再生させ



や企業など共同研究を開始。09年に厚生労働省の許可を得て、最初の手術を行った。昨年11月に患者の経過を診断。その結果、人工骨の内部で順調に新たな骨が作られて

人工骨は、新しい骨を作るための「土台」だ。これまで使われていた人工骨は、骨芽細胞が通るための空洞が複雑に入り組んでいた。そのため骨芽細胞が空洞の奥に流れ込めず、この穴に骨

いた。坂根准教授は「骨の再生には時間がかかるため、手術が成功した後は術後数年して初めて分かる。骨がうまく再生したか、少し不安だった」

後も慎重な経過観察が必要だ。失敗は決して許されない。「骨の損傷の仕方や部位は患者によって違う。一人ひとりにあった人工骨を作らなければならぬ。どうすればより安全になるのか、挑戦を続けている」と坂根准教授。骨太の「研究者魂」が、多くの患者の治療をしっかりと支えている。

## 手紙



女子やり投げ元日本記録保持者 小島裕子さん

1996年3月に体育専門学群を卒業しました。現在は都立高校で保健体育を教えるながら、陸上競技部と水泳部の顧問をしています。

## 仲間のお陰で記録樹立 学生時代の縁 今も続く

卒業後は地元で優勝の後、秋田国体成年女子の部で優勝した。その縁で、仲間のお陰で記録樹立、今も続いている。秋田国体成年女子の部で優勝した。その縁で、仲間のお陰で記録樹立、今も続いている。

## カワセミ



撮影地=3K棟付近

カワセミは水辺に住み、魚を主食としている小さな鳥だ。漢字で「翡翠」とも呼ばれる。宝石のヒスイも先白、3A棟近くでカワセミを撮影した。カワセミが必要としているのは、人間が見て綺麗な川ではなく、餌となる魚が豊富な水辺のようだ。皆さんも、自分の近くに青い鳥がいないか、目を配ってみてはいかでしょうか。(文川今田 創、比文2年 野生動物研究会、写真 武藤 将道、生物4年 同)

## 筑波大学自然図鑑

も、宝石に負けない美しい羽を持っている。カワセミというと、溪流の鳥のイメージだが、実は私たちの身近なところにもいる。写真のカワセミは、筑波大学3K棟近くの天の川で撮影された個体。筆者も先日、3A棟近くでカワセミを撮影した。カワセミが必要としているのは、人間が見て綺麗な川ではなく、餌となる魚が豊富な水辺のようだ。皆さんも、自分の近くに青い鳥がいないか、目を配ってみてはいかでしょうか。(文川今田 創、比文2年 野生動物研究会、写真 武藤 将道、生物4年 同)

# 全国大学選手権決勝 帝京大に敗れ初優勝逃す

## 後半意地のトライ



後半7分、トライを決める福岡 (1月10日、帝京大戦で=平嶋健人撮影)

【味の素スタジアム(東京都調布市)で山野辺拓実(社会系)1年、12面に関連写真】ラグビーの大学日本一を決める全国大学選手権の決勝戦が、1月10日に行われた。初優勝を目指した筑波大は、史上初の大会6連覇をかけた帝京大と対戦。7-50で敗れたが、2年ぶりの度目の準優勝を喫した。昨年の秋、関東大学対抗戦で開幕4連敗を喫する苦しい立ち上がりだったが、主力選手がけがから復帰すると勢いが回復。準決勝、東海大に逆転勝利するなど、4連勝で決勝まで勝ち上がった。

### ラグビー

国立競技場の改修で、味の素スタジアムに舞台を移した決勝戦。絶対王者・帝京大の磐石の試合運びに、筑波大の持ち味である「粘り」は封じられた。前半7分、自陣ゴール前でスクラムを組んだ筑波大だが、力で勝る帝京大に押し戻されボールを奪われると、そのままトライを決められた。21分にも左サイドを突破されトライされる。続く25分にも追加点を許した。筑波大も反撃を狙ったが、帝京大の堅い守りに阻まれ得点を奪うことができず、前半は0-21で折り返した。

### 観客の声

#### スタンドから最後まで声援 「来年こそ日本一に」

「味のあるスタジアムで鈴木拓也(人文3年)・田中開(教育1年)「来年こそは日本一の筑波が見たい」。2年ぶりの帝京との決勝。初優勝がかかる注目の一戦に、大勢の筑波ファンが味のあるスタジアムに詰めかけた。結果は7-50と優勝は逃したものの、観客は最後まで応援を続けた。

主将の松下真七郎(体専4年)など、友人が数人出陣していた菅内浩紀さん(同4年)は、終始前列から声援を送った。「今日は思ったように試合を進められなかったかも知れないが、ここまで勝ち進んだことに本当に感動した。心か



(上) ブルーの旗を振り声援を送る観客 = 田中開撮影 (下) 試合後、トロフィーを手に出場選手をねぎらう部員たち = 森脇慎撮影

後半序盤、筑波大がペーシングをつかむ。帝京大の反則が重なりゴール前まで迫ると、7分に左ウイングの福岡堅樹(情科3年)が混戦を抜け出しトライを奪う。

## 準決勝 残り10分で劇的逆転

【秩父宮ラグビー場(東京都港区)で山野辺拓実(社会系)1年、写真も】1月2日に行われた東海大との準決勝。残り10分で3-16と突き放された状況から逆転し、17-16で勝利した。劇的な幕切れにスタジアムは熱狂に包まれた。

### 記者の目

筑波大が初めて決勝に進出した一昨年と、今年の全国大学選手権の流れはよく似ている。両年も準決勝の東海大戦で試合終了間際に逆転勝利し、決勝では帝京大に敗戦。だが、中身は異なる。その違いを古川拓生監督(体育系・准教授)は「勢い」だと語る。

「一昨年は勢いで勝ち進んでいた」。対抗戦1位、大学選手権決勝進出と創部史上初の快挙が続いた。決勝の舞台でも、当時も圧倒的な力を誇っていた帝京大に、試合を重ねる中で生まれた勢いで挑んでいった。

## チームの「勢い」足りず苦戦 サポーターと共に悲願果たせ

一方「今年は実力で勝ち取った決勝進出だった」と古川監督は胸を張る。対抗戦では主力選手の負傷離脱もあり、初戦から4連敗と苦しんだ。だがそれがかえって功を奏した。本来は試合に出られない選手が出場して経験を積み、チーム全体の実力の底上げに成功した。また、自分たちのプレーを振り返り、タックルなど相手との「接点」の練習を徹底的に行い、

「帝京大の勢いを生んだのは、自分たちへの確固たる自信だ。もちろん筑波大の選手(古川監督)成長、持ち味のあるプレーに磨きがかかった。その成果

「帝京大の勢いを生んだのは、自分たちへの確固たる自信だ。もちろん筑波大の選手(古川監督)成長、持ち味のあるプレーに磨きがかかった。その成果

「帝京大の勢いを生んだのは、自分たちへの確固たる自信だ。もちろん筑波大の選手(古川監督)成長、持ち味のあるプレーに磨きがかかった。その成果

「帝京大の勢いを生んだのは、自分たちへの確固たる自信だ。もちろん筑波大の選手(古川監督)成長、持ち味のあるプレーに磨きがかかった。その成果



タックルを受けつつも果敢に攻める山下 (1月2日、東海大戦で)

「帝京大の勢いを生んだのは、自分たちへの確固たる自信だ。もちろん筑波大の選手(古川監督)成長、持ち味のあるプレーに磨きがかかった。その成果

「帝京大の勢いを生んだのは、自分たちへの確固たる自信だ。もちろん筑波大の選手(古川監督)成長、持ち味のあるプレーに磨きがかかった。その成果

「帝京大の勢いを生んだのは、自分たちへの確固たる自信だ。もちろん筑波大の選手(古川監督)成長、持ち味のあるプレーに磨きがかかった。その成果

「帝京大の勢いを生んだのは、自分たちへの確固たる自信だ。もちろん筑波大の選手(古川監督)成長、持ち味のあるプレーに磨きがかかった。その成果

「帝京大の勢いを生んだのは、自分たちへの確固たる自信だ。もちろん筑波大の選手(古川監督)成長、持ち味のあるプレーに磨きがかかった。その成果

「帝京大の勢いを生んだのは、自分たちへの確固たる自信だ。もちろん筑波大の選手(古川監督)成長、持ち味のあるプレーに磨きがかかった。その成果

「帝京大の勢いを生んだのは、自分たちへの確固たる自信だ。もちろん筑波大の選手(古川監督)成長、持ち味のあるプレーに磨きがかかった。その成果

「帝京大の勢いを生んだのは、自分たちへの確固たる自信だ。もちろん筑波大の選手(古川監督)成長、持ち味のあるプレーに磨きがかかった。その成果

「帝京大の勢いを生んだのは、自分たちへの確固たる自信だ。もちろん筑波大の選手(古川監督)成長、持ち味のあるプレーに磨きがかかった。その成果



グランドスラム東京

# 永瀬が連覇達成

デザイン 大西美雨 (社会学類1年)

## 世界選手権に向け弾み

世界のトップ選手が優勝を争うグランドスラム東京2014が、昨年12月5～7日、東京体育館(東京都渋谷区)で行われ、男子81kg級で永瀬貴規(体専3年)が連覇を達成した。この大会の81kg級での連覇は史上初の快挙。準決勝で昨年8月の世界選手権の覇者、アブタン・ディル・チリキンビリ(グルジア)に一本勝ちするなど、世界ランク上位の強豪を次々に倒した。

(新田萌夏II社会学類2年)

永瀬は初戦から三回戦まで一本勝ちで駒を進め、準決勝でロンドン五輪金メダルの金幸範(韓国)と対戦。大内刈りや技ありを奪い、優勢勝ちを収めた。準決勝は世界選手権で敗れたチリキンビリとの対戦。序盤は両者とも譲らず一進一退の攻防が続いたが、試合開始から2分半が

たつたところで小外掛けで一本勝ち。因縁の相手に雪辱を果たした。



トマに積極的に技を仕掛ける永瀬 (12月6日、グランドスラム東京の男子81kg級決勝戦で)

ら一分半を過ぎたところでトマに指導が入り、永瀬の優勢が決まった。永瀬は優勝の要因に積極的に技をしかけたことを挙げ、「相手に試合のペースを握られ敗れた世界選手権での反省を生かした」と語った。また、今年の目標については、「世界選手権に優勝すること。リオデジャネイロ五輪に向けて弾みをつけたい」と話した。

## 男女ともに3回戦敗退

### プロの壁に阻まれる

【国立代々木競技場第一体育館(東京都渋谷区)などで大西美雨II社会学類1年写真も】バスケットボール日本一を決める全日本選手権が1月12日まで行われた。筑波大からは、昨年11月の全日本大学選手権で優勝した男子、同7位の女子ともに出場。だがプロチーム相手に苦戦し、男女とも3回戦で敗退した。



相手にフェイントをかける笹山 (1月3日、全日本選手権の東京エクセレンス戦で)

手権が1月12日まで行われた。筑波大からは、昨年11月の全日本大学選手権で優勝した男子、同7位の女子ともに出場。だがプロチーム相手に苦戦し、男女とも3回戦で敗退した。

代々木第一体育館で行われた3回戦で、プロリーグの2部リーグで首位を走る東京エクセレンスと対戦し、78-93で敗れた。第1ピリオド序盤から東

京に先制点を奪われると、立て続けにシュートを決められる苦しい展開に。筑波大も杉浦祐成(体専1年)を中心にゴールを狙ったが、東京の守備を崩すことができない。第2ピリオドに入ると最大18点差をつけられたが、中盤から坂東拓(同4年)が3ポイントシュートを決めるなど巻き返し、39-49で前半を終えた。

第3ピリオドも東京に攻め込まれたが、終盤にキャプテンの笹山貴哉(同4年)が好守から得点を挙げ、さらに終了間際には馬場雄大(同1年)のシュートが決まり、60-67と詰め寄る。だが第4ピリオドに入ると勢いは止まり、立て続けにゴールを奪われ再び突き放された。笹山や山田侑樹(同4年)ら、この大会を最後に引退する4年生が続け

まに得点に絡み意地を見せたが、追いつくことはできず試合終了。プロの壁を超えることはできなかった。笹山は二人一人の得意なプレーをどこぞで防がれてしまった。プロとの実力差を感じたと試合を振り返り、「この試合で4年生は引退するが、4年間素晴らしい環境でバスケットができたことに感謝したい」と語った。

吉田健司監督(体育系・准教授)は、「プロに対し緊張したのか動きが固かった。大学1位として、3回戦で敗退してしまったことには責任を感じる」と話した。

1回戦、2回戦ともに学生相手に大差で勝ち上がった筑波大。3回戦では女子トップリーグWJBLの第2代表、デンソー・アイル

スに挑んだが、55-99で敗れた。

第1ピリオドから、デンソーに優位に試合を進められ、9-23と大きく離される。第2ピリオドもデンソーはペースを崩さず得点を重ねる。筑波大も松本愛美(体専1年)や吉成文(同1年)のゴールで反撃するが更に点差は広がり、前半を18-43で折り返す。

第3ピリオドに入ると筑波大にミスが目立ち始め、デンソーにボールを拾われ場面が増える。第4ピリオドでも勢いは変わらずさらに突き放され、完敗に終わった。

大高敏弘監督(体育系・教授)は、「序盤に差をつけられると追いつけないのが課題。試合前にインフルエンザが流行ってしまっただけで、準備不足だったことも大きかった」と語った。

情熱胸に高み目指す

だが、苦汁も舐めた。高校2年生の全国大会で、東海大学付属第三高に進学。「勝ちたい」一心で朝は誰よりも早く体を動かした。

高校は地元長野県の強豪、東海大学付属第三高に進学。「勝ちたい」一心で朝は誰よりも早く体を動かした。だが、苦汁も舐めた。高校2年生の全国大会で、東海大学付属第三高に進学。「勝ちたい」一心で朝は誰よりも早く体を動かした。



女子バレー部 新主将

## 帯川きよら(体専3年)

取れず太敗。猛練習したスパイクをこぼし、マンツーマンの個人特訓に恵まれたうえ、スポーツで有利とされる左利き。これを武器に、全日本中学校選抜にも選出された。

育館に向かうなど、練習に打ち込んだ。監督とのマンツーマンの個人特訓に恵まれたうえ、スポーツで有利とされる左利き。これを武器に、全日本中学校選抜にも選出された。だが、苦汁も舐めた。高校2年生の全国大会で、東海大学付属第三高に進学。「勝ちたい」一心で朝は誰よりも早く体を動かした。



## 顔

184cmの長身と、最高2.09mにまで到達する跳躍で、相手のスパイクを強固なブロックで防ぐ。関東大学一部リーグでは、昨年の秋季、昨年の春季と2季続けてプロク賞に輝いた。昨年12月にはキャプテンに就任し、決意新たにチームを引っ張る。

## 井上が初優勝 長身生かし演技

155cmの身長を生かし、大きく美しい演技を披露。下り技の伸身と回宙返りを決めるとミスなく技を決め、13・20点を記録。2位とは0・05差という接戦だったが、減点を最小限に抑えた演技で勝利を手にした。

井上は「直前まで練習できないことが多く不安だったが、慎重に演技したことが優勝につながったと思う。今はそれぞれの技の難易度が低いので、この結果に満足している」と語った。

松浦が3連覇  
跳躍で強さ発揮  
全日本ラト競技選手権がつかばカピオ(茨城県つくば市)で、昨年12月13-14日に行われた。筑波大からは11人が出場し、女子個人総合で松浦祐希(体専4年)が3連覇を達成し、小出奈実(体育1年)が3位に入賞した。

今年の目標は6年ぶりととなり、全日本インカレ優勝。栄光を目指してひたむきな努力を続ける彼女の活躍が、今後の勝利の鍵だ。(林健太郎II社会学類2年、写真も)

記録ファイル  
女子サッカー 関東女子リーグ入替戦(昨年12月27日、東京国際大学ラウンド) 筑波大0-0尚美学園大II 一部残留  
バドミントン 全日本教育系学生選手権(昨年12月27-28日、葛飾区総合スポーツセンター体育館) 女子シングルス 漆崎真子(体専4年) II 優勝、大久保敦美(同2年) II 準優勝、ダブルス 加藤美幸(同1年)・柏原みき(同1年) II 優勝(男子) V ダブルス 山本皓策(体専4年)・木村健太郎(同4年) II 準優勝



# ノーベル財団理事長講演 「基礎研究 軽視しない」

ノーベル財団が主催する「ノーベル財団」のカーン・ヘンリック・ヘルデン理事長を招いた講演会と対談が、筑波大学長主催で1月14日、大学会館で開かれ、定員150人の会場は学内外からの来場者で満席になった。

(佐々木優二 知識情報・図書館学類3年)

理事長は「ノーベル賞と科学の発展」をテーマに講演。賞の選考の様子や過去の受賞者とその功績、またノーベル財団が行う事業などについて説明した。

この後、理事長は「どこまで知っているか」「ノーベル賞をテーマに永田泰介学長と対談。学長が「最近のノーベル賞では基礎研究より、応用研究が評価される傾向にあるのでは」「ノーベル賞の審査の時に重視する点は何か」と質問。著名ながん研究者でもある理事長は「基礎研究の軽視はな

「夢の中に入りたい」とつぶやく小児がんと戦う少年。「あの星座、知ってる」と歓声を上げる車椅子や年配の入院患者たち。昨年3月、筑波大学附属病院の食堂で行われたイベント「星の降る夜」では、スクリーンに皆が見入っていた。

見慣れた病院の食堂をプラネタリウムに変えたのは、筑波大学のボランティアグループ「UNICO(ユニコ)」。2013年10月に発足した後、社会貢献プロジェクトの一環として活動を始めた。宇宙や星を使って人々に癒やしと元気を届けることを目的とし、附属病院やつくば市内の

## 病院をプラネタリウムに

### 星で心のケアを

小中学校を中心にプラネタリウムや天体観望会、星座についてのお話などのイベントを行ってきた。

イベント「星の降る夜」では、食堂の片隅を暗幕で囲み、病院のシーツをスクリーンにして星を投影。神秘的な音楽を背景に、ギリシャ神話や逸話を交えながら星座を紹介した。点滴をした人、車椅子に乗った人など集まった患者は30人以上。発足後初めてのイベントだったが、あまりの盛況ぶりに時間を延長した程度だった。

上映が終わると、「すごく綺麗だった」「私も星座の勉強をした」と患者たちは興奮した様子で語った。中には数日後、集中治療室に移る小児がんの子もいた。その子の母親は「個室に移っても



病院の食堂で作られた手作りのプラネタリウムに見入る参加者たち = UNICO 提供

星を見られるよう、室内用プラネタリウムを買ってあげようと思いましたが、笑った。活動を始めたきっかけは、メンバーの高村有加さん(看護4年)が筑波大入学前に働いていたところの経験だった。患者の多くが、安静を保つために一日中ベッドの上で真っ白な天井を見つめていたのだ。そこで高村さんは「病院の天井を見ても安心を感じ、自分一人ではないと感じてほしい」とグループを結成。その後、物理や医学、芸術などさまざまな分野に精通するメンバーが集まり活動を開始した。宇宙や星についての知識がある人ばかりではないが、それぞれの経験を生かしてイベントを行っている。

今後は、病院での活動に加え、児童養護施設や介護福祉施設などのイベントも行っていく予定だ。介護が必要な人の入浴を手伝う際に、浴室の天井に星を映し、リラックスしてもらおう新しい企画案も出ている。「星の魅力は、知識がない人も奇麗に感じられるところ。プラネタリウムなどを開催することで、患者さんの心のケアに役立てばうれしい」とメンバーは話す。病院に輝く無数の星々。その不思議な魅力は人々の心を癒やし、笑顔を生み出していく。(油布知夏二 人文学類2年、12面に関連写真)

一方、来場者の「日本では論文不正が問題になっていくが、世界から日本の科学はどう見られているか」の質問に理事長は「不正防止のために、厳格な基準が必要だが、不正は世界中にある」と回答。また「ノーベルの発明したダイナマイトのように、発見が戦争に利用される場合もあるがどう思うか」という質問には「研究に良い悪いはない」と、発明や研究の「悪用」はあくまで結果論との見方を示した。

本紙に対するヘルデン・ノーベル財団理事長の他の発言内容は以下の通り。(福原樹樹)

**賞への批判**

賞には①死者は受賞できない②受賞までの期間が長すぎる③数少ない賞がある。だが、④はノーベルの遺言に従ったもので、変更できない。また①については、もし死者の受賞を認めれば候補者が莫大な数になり選定も難しくなるだろう。

②については素粒子物理学などで実証まで時間がかかり、受賞が遅れる例がある。だが、

**基金の財政**

ノーベルの遺産は彼の死後減り続けたが、財団は60年代以降、株式投資なども行い、利益を得てきた。90年代は好況でもあり(将来の運用に)樂觀だったが、2000

**選考に細心の配慮**

実証前に拙速に賞を出すのは、危険だ。一方(インド独立の父)ガンジーの例のように「受賞すべき人間が受賞しない」という批判もあるが、ガンジーが暗殺された1948年、選考委員会は平和賞を出しておらず、ガンジーが同年の最大の有力候補だったことが分かる。

賞は過去100年以上の間、ノーベルの遺志を継ぎ、国籍に無関係に人類に貢献した人に与えられてきた。科学面で最も歴史がある主要な賞であり、何年にもわたり(賞金面でも)世界最高レベルだった。また、選考委員会は賞に値する科学者を採り出すのに最大の注意を払ってきたと思う。



### ヤゲウォ大学 三藤紫乃 (ポーランド)

「なんでポーランドに留学するの?」。私が留学を決めた時、多くの人々に聞かれました。留学を決めたのは、昨年の秋のこと。幼いころに「アネの日記」を読んで衝撃を受け、ヨーロッパの戦争の歴史、特にナチスドイツのユダヤ人迫害の歴史に興味を持ち、ポーランドで学びたいと

## ユダヤ人迫害の歴史に学ぶ



友人とほほ笑む三藤さん(左)(昨年10月、ポーランドの植物園で) = 本人提供

ユダヤ人はゲット(強制居住区域)や強制収容所に送り込まれ、多くの命が失われました。ユダヤ人だけでなく、ポーランド人やロマ、同性愛者も犠牲になっています。しかしこの町には過酷な歴史もあります。第二次世界大戦時、ドイツの侵攻で、なども収容され、厳しい迫害を受けました。最大規模の収容所・アウシュビッツがあったのもポーランドです。

私はヤゲウォ大学で、ホロコースト(シヨア)と言われる戦時下のユダヤ人に対する迫害の歴史を学んでいます。授業ではドイツ人留學生の意識の高さに驚かされました。加害国のドイツでは戦後、「自分の父親や祖父が占領国でどのような行動をとったのか」という不安が、トラウマとして国民の中で芽生え、超えて受け継がれ、被害国と同じように戦争の歴史と向き合っています。欧州の教育プログラムにアウシュビッツの学習が導入されたことも、若者が負の歴史に積極的に向き合い始めた背景があるように思います。近年、各方面の研究や調査、生存者の証言から多くの事実が解明

今年1月27日、アウシュビッツ強制収容所解放から70周年を迎えます。平和とは何か、戦争の歴史と私たちはどのように向き合っていくべきか。答えを考えるのは難しいですが、節目の年にポーランドでゆっくりと考えていこうと思います。(国際総合学類3年)

### バイオeカフェ 菌などの研究成果講演 参加者同士で意見交換も



講演の合間、テーブルトークで積極的に意見交換する参加者たち(1月6日、総合研究棟Aで)

生物学類と生命環境科学研究所が主催するイベント「バイオeカフェ」が1月6日、総合研究棟Aで行われた。88回目となる今回は、「ほくほの大好きなカビと昆虫をめぐる菌と題して川洋助教(生環系)が講演。学内外から約40人が参加した。

出川助教は、菅平高原実験センター菅平菌学研究室(長野県上田市)でさまざまな菌を発見し、菌の分類や、胞子が発芽してから成長し再び胞子を作るまでの

生活の過程(生活史)の研究に取り組んでいる。講演では、ある菌の生活史を初めて解明したことや、筑波大の本部棟付近にも生息する昆虫「ヒゲシロハサミムシ」の腸内から新種のカビを探り出したことなど、研究の成果について失敗談や苦労話をするなどユーモアを交えながら話した。

講演の合間には、参加者同士が意見を交換する「テーブルトーク」の時間が設けられた。参加者は、「胞子の複雑な形の理由」や「ある胞子に特徴的な形の機能は何か」をテーマに、活発に意見を交換していた。

同助教は講演後、「来場者の」発想がユニークだったので、自分が気付かなかったことを指摘され、驚いた」と語った。

来場した男子学生は「さまざまな学類の人が参加していたので、テーブルトークの時に自分では思いつかない考えを聞いて良かった」と話した。(深作歩美、写真も)

# 円滑なグループ学習目指す 「主体的な学び支えたい」



### 東京電機大の 試み

「教員は学生に知識を与えるだけでなく、学生の学びを支援していくべきだ」。東京電機大学(東京都足立区)で木村敦・同大助教(心理学)が担当する「ITコミュニケーションと社会」という授業は、この立場に立つて展開されている。学生からの評判も良く、この授業について報告した自身の論文も高い評価を得ている。

「ITコミュニケーションと社会」は、IT技術を



「ITコミュニケーションと社会」でグループ発表を行う学生=木村敦助教提供

「ITコミュニケーションと社会」でグループ発表を行う学生=木村敦助教提供

「ITコミュニケーションと社会」でグループ発表を行う学生=木村敦助教提供

「ITコミュニケーションと社会」でグループ発表を行う学生=木村敦助教提供

「ITコミュニケーションと社会」でグループ発表を行う学生=木村敦助教提供

「ITコミュニケーションと社会」でグループ発表を行う学生=木村敦助教提供

「ITコミュニケーションと社会」でグループ発表を行う学生=木村敦助教提供

# 相次ぐ学生の盗難被害 「犯罪が起きない環境を」

筑波大生の財布や現金、自転車の盗難被害が続いている。学生生活課は「犯罪が起きない環境を作ることが大切だ。防犯意識を高めてほしい」と注意を呼びかけている。

現金の盗難では、昨年12月17日、学生が中央図書館2階の学習スペースの机に財布を置いたまま近くのフアで仮眠していたところ、財布から現金2万円が盗まれた。

また体芸エリアの食堂では、今年1月14日に現金の盗難が発生。財布を机に置き忘れた学生が支援室に問い合わせたところ、財布は見つかったが、中に入っていた現金約3万円が盗まれていた。このほかにも、紛失したり、置き忘れたままの財布から現金が抜き取

られる例が相次いでおり、4万円を盗まれた学生もいるという。

一方、自転車盗難は12月中旬に学内で7件、春日地区のアパートで1件発生。うち5件が無施錠だった。つくば中央署は「無施錠の自転車の盗難は容易で、犯人に狙われやすい。安全な社会を作るため、学生一人ひとりが意識してほしい」と指摘した。

(栗山菜帆子)

# 卒業する学生の自転車 今年も回収し販売へ

筑波大学は、卒業する学生の自転車を回収・整備し、新入生に販売する取り組みを今年以降も続けていく。学生が卒業に際し学内に放置している自転車を減らすために、昨年は約100台の自転車を回収。うち販売したのは、壊れていて使えない物を除いた約10台。学

生生活課は「放置自転車を減らしリサイクル自転車を増やしたい」と話し、学生に協力を求めている。

同課では昨年、回収した自転車を、学生宿舎入居時に各宿舎の共用棟で一台3000〜5000円で販売した。販売した自転車は

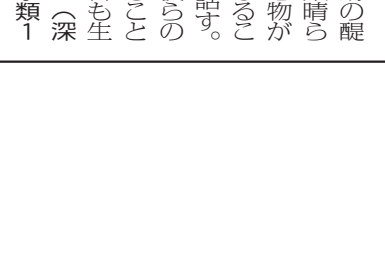
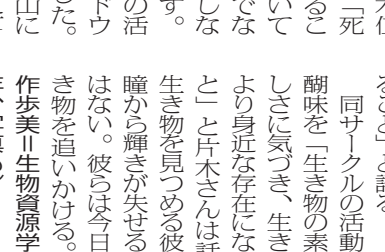
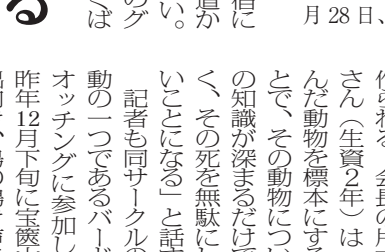
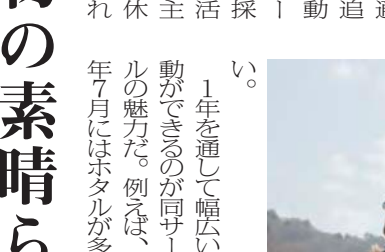
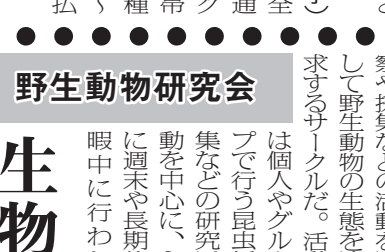
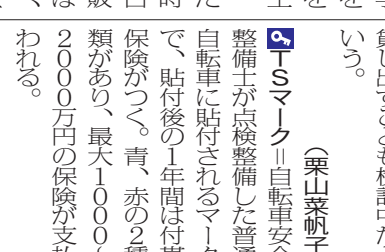
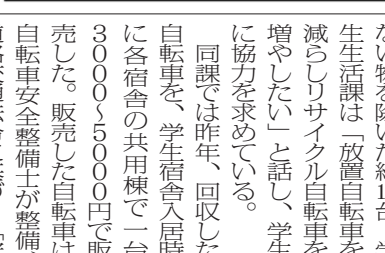
道路交通法令に基づき「安全

な自転車」であることを確認し、TSMマークを貼って安全性を確保している。

同課は今年も2月上旬と卒業式の前後に、大会館で自転車を回収する予定だ。回収数が今後増えれば、短期留学生などに自転車を貸し出すことも検討中だという。

(栗山菜帆子)

# 琴ちゃんせんせい



# 生物の素晴らしさ知る

野生動物研究会は、観察や採集などの活動を通して野生動物の生態を追求するサークルだ。活動は個人やグループで行う昆虫採集などの研究活動を中心に、主に週末や長期休暇中に行われ

る。1975年に設立された歴史あるサークルだ。会員は25人。鳥類、昆虫、は虫類など自分が好きな生き物を「専門」に追いかける会員が多

い。長期休暇中には合宿で行く。行き先は北海道から奄美大島まで幅広い。現地では4人程度のグループに分かれ、つ

は「死んで発見された鳥など。骨格標本は、死体の全長や尾の長さなどを測定し、解剖。骨についた肉を除去し、組み立てて作られる。会長の片木仁さん(生資2年)は「死んだ動物を標本にすることで、その動物についての知識が深まるだけでなく、その死を無駄にしないことになる」と話す。

記者も同サークルの活動の一つであるバードウォッチングに参加した。昨年12月下旬に宝篋山に向き、鳥の鳴き声に耳

を澄ませながら山道を散策。鳴き声が聞こえ、鳥の種を予想しながら姿を探す。双眼鏡で観察し、写真を撮る。鳴き声から鳥の種類を特定できない時は、持参した鑑鏡で調べる。鳴き声は聞こえるが鳥が見つからないものかきさがあるが、鳥の姿を見つけて種を特定できた時の喜びはひとしおだ。片木さんは「バードウォッチングの魅力は初心者でも気軽に楽しめること」と語る。

同サークルの活動の醍醐味を「生き物の素晴らしさに気づき、生き物がいかに身近な存在になること」と片木さんは話す。生き物を見つめる彼らの瞳から輝きが失せることはない。彼らは今日も生き物を追いかける。(深作坂美II生物資源学類1年、写真も)

# 野生動物研究会

生物の素晴らしさ知る

生物の素晴らしさ知る

生物の素晴らしさ知る

生物の素晴らしさ知る

生物の素晴らしさ知る

生物の素晴らしさ知る



双眼鏡で野鳥を観察する会員たち (12月28日、宝篋山で)



生物の素晴らしさ知る

生物の素晴らしさ知る

生物の素晴らしさ知る

生物の素晴らしさ知る

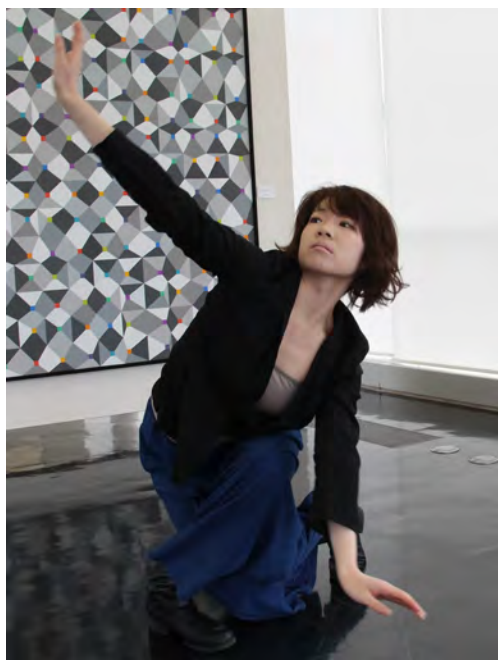
生物の素晴らしさ知る

生物の素晴らしさ知る

# Who's Who?

ダンスの国際振付コンクールで日本人初のグランプリ

## 幅田 彩加 さん (体育2年)



ダンスを披露する幅田さん (1月21日、大会館で) = 原啓一郎撮影

昨年11月にベラルーシ・ヴィテブスクで行われた第27回国際モダンバレエコンクール「グラフィーフェスティバル」で、伊藤湖太郎さん(平成23年度心理学類卒)とペアを組み、日本人初のグランプリを受賞した。数あるダンスのコンクールの中でも最大規模のもので、1位の更

に上の賞としてグランプリが授与される。受賞者無しに終わることもあるほど、受賞は難しい。「まさかグランプリを受賞できるとは思っていませんでした。自分の中では、異なるジャンルのダンスを組み合わせた面白いダンスだったため、それを賞してほしい」と振り返る。

創作ダンスは決まった振付がなく、創作者が「から表現を作る。日本ではまだまだ一般的ではないが、世界中に根強いファンがいる。ベラルーシで行われた決勝大会の会場は満席。世界の舞台は初めて、海外で自分のダンスが通用する不安もあったが、「決勝の舞台は緊張より楽しさが勝っていた」とほほえむ。「育った環境、文化や価値観を超えて、心で自分の表現したいことを訴えることができた」

横濱市出身。友人にダンススクールに誘われ、8歳でモダンダンスを始めた。モダンダンスは決まった動きのルールがなく、思いを自由に表現できる。それが自分に合っており、夢中になった。次第に力がつき、国内の名高いコンクールで入賞するまでに。しかし常に私は何のために踊るのかわからず、目的を模索し続けていた。更にダンスの世界に導いてくれた友人を小学生のころに、そして心の支えだった母親を高校生に亡くした。「ダンスも勉強も人の3倍頑張らなくて、友人や母親の分も私が生きよう」と心に決め、ダンスをはじめあらゆることに

## 文化を超えて思いを伝える 日常をダンスの題材に

食欲に打ち込む日々が続いた。筑波大学入学後はダンス部に入部。多くの仲間に出会った。彼女らとダンスを創るうちに、「二人でダンスを創っていたころよりも視野が広がった。そんな中、ダンスの本当の魅力に気づいた。文化や国境を超えて自分の思いを伝えたり、見る人に感動を与えることだ。『本当の魅力が分かったら、ダンスを心から楽しめよう』と語る。友人たちは現在、海外でプロとして活躍したり、地域の子ども向けにダンススクールを設立している。時々連絡を取り、励まし合ったり刺激を受けている。

昨年の11月の大会でペアを組んだ伊藤さんと、大学1年生の時に出会った。彼は筑波大のダンススクールReal Jamに所属していた。伊藤さんは年末年始から、ダンス部とReal Jamが共用する筑波大のダンス場で、「一人汗だくになって踊るほどの熱心なダンサー。その一生懸命な姿が印象に残り、ペアを組んだ。今回の作品では、細かい動きまで手足の角度を決めたり、動きのブレをなくすことになった。本番前には「楽しもう」と励まし合った。グランプリ受賞直後は実感が湧かなかったが、周囲からおめでとうと声をかけられ、二人で「本当にグランプリになったんだね」と笑い合った。

休日には美術館に行ったり、映画を観て過ごす。映画を観る際には、出演者の姿勢や動作を細かに観察。「気が付くと、友人の何気ないしぐさもじっと見てしまう」。日常生活の中から、無意識にダンスの材料を探している。

グランプリ受賞をダンス人生のゴールにはしない。「今回の受賞をきっかけに、今後もいろいろなダンスを創作していきたい」。彼女の生み出すダンスは、これからも世界中の人々の心を動かしていくだろう。(大西美雨 社会学類1年)

## 落語研究会 40周年記念ライブ



大喜利を披露する研究会員たち (1月17日、ノバホールで) = 山野辺拓実撮影

5面へ

## 全日本大学選手権決勝



ボールを取り合う両校の選手たち (1月10日、帝京大戦で) = 平嶋健人撮影

8面へ

## 全日本ラート競技選手権



斜転の演技を披露する松浦佑希 (昨年12月14日、つくばカピオで) = 本人提供

9面へ

## 社会貢献プロジェクト



望遠鏡を覗き込む参加者たち (昨年9月3日、筑波大学附属病院で) = UNICO提供

10面へ

学芸

スポーツ

スポーツ

学生生活



Facebook  
はじめました!

筑波大学新聞の公式Facebookページができました。新聞の発行日や設置場所、最新号の見どころをお知らせしていく予定です。読者の皆様のご意見もお待ちしております。検索エンジンで「筑波大学新聞 Facebook」などで検索するか、以下のQRコードを携帯電話・スマートフォンなどで読み取ってください。

また、筑波大学新聞のバックナンバーは以下のURLでご覧いただけます。  
https://www.tsukuba.ac.jp/public/newspaper/shinbunindex.html



次号は

4月6日(月)

発行予定です